

中間評価シート

中間評価（表紙）

向日市 歴史的風致維持向上計画（平成27年2月23日認定） 中間評価（平成27年度～令和元年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
Ⅰ 歴史と文化に関する情報発信、情報提供に努め、「向日市」の認知度を高める	3
Ⅱ 地域の伝統文化の保存・継承、後継者の育成に努める	4
Ⅲ 歴史・文化資源を維持保全するとともに、活用を図る	5
Ⅳ 美しい景観の保全と修景に努める	6
Ⅴ 「大極殿のあるまち 向日市」にふさわしい地域・観光振興を推進する	7
■ 波及効果別シート（様式3）	
ⅰ ふるさと向日市をPRする人材の育成	8
ⅱ 「向日ブランド」に向けた商品・コンテンツ開発	9
ⅲ 観光入込客数の増加	10
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 大極殿整備計画事業	11
B 向日市文化資料館企画展実施事業	12
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 向日神社に係る歴史的風致（神社と各種祭礼）	13
2 史跡長岡宮跡に係る歴史的風致（史跡長岡宮跡と大極殿祭）	14
3 古代の街道に係る歴史的風致（説法石と題目踊）	15
4 用水・ため池と条里制水田に係る歴史的風致	16
5 竹林とタケノコ栽培に係る歴史的風致	17
6 鉄道と住宅地開発に係る歴史的風致	18
■ 庁内体制シート（様式6）	19
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	20
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	21

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R6年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	向日神社に係る歴史的風致（神社と各種祭礼）	I, II, V	
2	史跡長岡宮跡に係る歴史的風致（史跡長岡宮跡と大極殿祭）	I, II, III, V	
3	古代の街道に係る歴史的風致（説法石と題目踊）	I, II, IV, V	
4	用水・ため池と条里制水田に係る歴史的風致	I, IV	
5	竹林とタケノコ栽培に係る歴史的風致	I, IV, V	
6	鉄道と住宅地開発に係る歴史的風致	I, IV, V	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	歴史と文化に関する情報発信、情報提供に努め、「向日市」の認知度を高める		
II	地域の伝統文化の保存・継承、後継者の育成に努める		
III	歴史・文化資源を維持保全するとともに、活用を図る		
IV	美しい景観の保全と修景に努める		
V	「大極殿のあるまち 向日市」にふさわしい地域・観光振興を推進する		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	ふるさと向日市をPRする人材の育成		
ii	「向日ブランド」に向けた商品・コンテンツ開発		
iii	観光入込客数の増加		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	大極殿整備計画事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	向日市文化資料館企画展実施事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R1年
方針	I 歴史と文化に関する情報発信、情報提供に努め、「向日市」の認知度を高める	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

歴史的風致を維持向上するためには歴史・文化資源豊かな「向日市」として認知されることが重要であるが、現状は長岡宮跡が存在する市としても認知されておらず、本市の歴史・文化資源を十分に情報発信し、認知度を高めることは重要な課題となっている。

これまでの広報むこうや市ホームページを活用した情報提供に加え、情報案内板や観光マップなどあらゆる媒体を活用して情報発信、情報提供を行っていくとともに、大極殿跡の整備や京都市との連携事業を進めることにより、「大極殿のあるまち 向日市」としての認知度を高めていく。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	長岡京広報・PR事業	公共交通機関を活用した広報、ロゴマーク作成、グッズ販売等	あり	H27～R6
2	長岡京・平安京連携事業	竹結びフェスタ参加者数 約1万1千人(R1)	あり	H26～R6
3	観光マップ作製事業	歴まちガイドマップ発行 7千部(H27) 「るるぶ」発行部数 22万部(H29～R1) 向日市の歴史発行(H29)、販売(R1)	あり	H26～R1
4	文化資料館企画展実施事業	企画展実施 年1回(H27～R1)	あり	S59～R6

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●長岡京広報・PR事業
長岡宮跡の共通ロゴを作成し、ロゴマークを活用したグッズを製作することにより、長岡京が向日市にあったことを市内外に発信することができ、認知度向上に寄与した。また、公共交通機関を利用した広報や商業施設を利用したPRイベントなどを実施することで、「大極殿のあるまち 向日市」としての認知度向上に寄与した。

●観光マップ作製事業
歴史的風致を巡るガイドマップを付した「向日市歴まちガイドマップ」や、『向日市史』(1988年全3巻完結)の内容をもとに、刊行後の約30年間の調査・研究の成果も含めて向日市の歴史の概要をまとめた「向日市の歴史」により、本市の風致や歴史・文化資源を分かりやすく紹介することができた。

また、本市の歴史・文化資源などを紹介した観光冊子「るるぶ 特別編集 京都向日市」では電子ブックも作成し、時代のニーズにあった情報発信、情報提供を行うことができた。



向日市
古都のむこう 魅力のふるさと
Muko city, Kyoto-The ancient capital
full of the historic charms.

共通ロゴマーク



竹製ピンバッジ
[市内事業者が作成・販売]
(H29年度)



向日市歴まちガイドマップ
(H27年度)



向日市の歴史
(R1年度)

④ 自己評価

アンケート調査の結果、市のPR活動の認知度は約7割あり、冊子やロゴマーク、企画展などあらゆる媒体を活用した多角的な情報発信及びPRに一定の効果があつた。

⑤ 今後の対応

引き続き、広報むこうや市ホームページ、情報案内板、観光マップなど、あらゆる媒体を活用して、向日市に関する情報を発信、提供するとともに、京都市との連携事業を実施することで「大極殿のあるまち 向日市」としての認知度を高める。さらに、歴史・文化のまちづくりの中核拠点である文化資料館において企画展を開催することにより、さらなる歴史資料の公開や情報提供を行い、歴史・文化資源に触れる機会の更なる創出に取り組む。

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R1年
方針	Ⅱ 地域の伝統文化の保存・継承、後継者の育成に努める	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

本市には向日神社の神幸祭、還幸祭をはじめ、鶏冠井題目踊、大極殿祭など地域で行われている祭礼や伝統文化が多数存在しているが、近年では祭礼行事を支えていた担い手の高齢化や地域コミュニティに対する関心の希薄化により、後継者が不足している状況になっている。

このような状況を打開するための技術継承、後継者育成の取り組みが不十分であることから、郷土芸能の保存や伝承活動への支援に努めるとともに、活動の様子を地域住民に周知し、地域全体での保存・継承が図られるよう取り組む。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	地域歴史ボランティア養成事業	・むこうスタイルLABO H29 全4回（約40人が受講）	あり	H29～R1
2	長岡京を活かしたまちづくり等支援事業	・むこう観光スタートアップ講座 R1 全8回（26人が受講）	あり	H29～R1
3	市民歴史活動連携事業	参加人数延べ311人（H27～30）	あり	H24～R6
4	歴史資源調査活用事業	古文書目録整理、歴史資源所在調査等	あり	S59～R6

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

- 地域歴史ボランティア養成事業
- 長岡京を活かしたまちづくり等支援事業

勉強会「むこうスタイルLABO」や観光まちづくりに関する人材育成プログラム「むこう観光スタートアップ講座」に参加した市民が自ら企画運営を行い、イベントの開催や市内ガイドの企画など、市民主体のまちづくりにつながった。

- 市民歴史活動連携事業

多くの人が集まる「向日市まつり」と連携して行われる歴史・文化の市民活動「大極殿衣裳行列」「西岡武者行列」を支援することで、地域住民が本市の歴史的な魅力を体感することができる機会を提供することができた。

- 歴史資源調査活用事業

本市に点在する歴史・文化資源を活かしたまちづくりを推進するため、市内の祭礼や講などの行事に関連する資料の調査を行うとともに、調査成果を活用した歴史講座及び歴史散歩等を開催することで、伝統文化の保存や継承を図ることができた。

④ 自己評価

市内の祭礼や伝統文化に関する調査結果を広く市民に周知することに加え、市民参加型事業を展開することで、伝統文化の保存・継承や、継続的に活動してもらえる人材の育成を図ることができた。

⑤ 今後の対応

文化資料館での企画展や長岡京を活かしたまちづくり等支援事業を通じて、市内の祭礼や伝統文化を地域住民に周知し、地域全体での保存・継承が図られるよう、取り組みを進める。

また、歴史等に関する市民活動の支援を行い、市民が主体となって向日市の魅力を市内外に発信することができる人材育成に努める。



むこう観光スタートアップ講座
(R1年度)



古代衣裳着用体験イベント
「長岡宮の都人に変身！」
(H30年度)

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R1年
方針	Ⅲ 歴史・文化資源を維持保全するとともに、活用を図る	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

本市では、これまで文化財の指定や登録などを行うことで、歴史上価値の高い建造物などの保存に努めてきたところであるが、認知度が低かったり、個人の所有などの事情により、十分な活用がされておらず、建替えや増改築、取り壊しによって失われつつある。

長岡宮跡の史跡範囲の拡大と公有化、古墳群や歴史的建造物などの文化財指定については引き続き取組みを進めるとともに、歴史文化資源のネットワーク化を図る。また、文化資料館においては歴史的資料を収集、整理しやすい環境を整備するとともに、展示内容を充実させる。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	大極殿整備計画事業	東屋建築(75.47㎡)、回廊表示(339㎡)	あり	H24～R2
2	向日市文化資料館整備事業	歴史体験交流センターの整備	あり	H25～27
3	発掘調査説明会事業	参加人数延べ1,150人(H27～H29)	あり	S52～R6
4	文化財の指定	史跡:長岡京跡(H28追加)、乙訓古墳群(H28) 国登録文化財:向日神社(H27)、旧上田家住宅(H30)	あり	H27～R6

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●大極殿整備計画事業
周辺の歴史文化遺産と一体的に保存し、また、目に見えない史跡をより体感できるように一部を立体的に復元させることで、史跡長岡宮跡大極殿地区の活用促進に寄与した。

●向日市文化資料館整備事業
歴史・文化のまちづくりの中核拠点となる文化資料館の一部を歴史体験交流センターとして整備することで、本市の歴史・文化や観光情報を発信し、来訪者が休憩や交流することができる環境を整えることができた。

●発掘調査説明会事業
埋蔵文化財発掘調査を実施することで埋蔵文化財の保存・活用を図ることができ、発掘した成果について説明会を開催することで、埋蔵文化財に対する市民の理解を深めることができた。

歴史体験交流センター
(H29年度)

発掘調査説明会[五塚原古墳口
縁部西側] (H28年度)

④ 自己評価

史跡や歴史的建造物などの文化財の指定や整備により、歴史・文化資源を維持・保全することができ、それらを活用した事業を行うことにより、市民や来訪者の文化財に対する認知や理解を深めることができた。個人所有の建造物については、歴史的価値が高くては諸事情により保全できなかったものもあり、維持・活用のあり方を検討していく必要がある。

⑤ 今後の対応

引き続き、長岡宮跡の史跡範囲の拡大や整備、文化財の指定に取り組むとともに、これらの文化財を活用したイベント等を行うことにより、文化財の歴史的価値を広く普及し、歴史・文化資源を維持保全する機運を高める。

また、文化資料館においては歴史的資料の収集、整理しやすい環境を整え、展示内容の充実を図る。

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R1年
方針	Ⅳ美しい景観の保全と修景に努める	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

向日市には「竹の径」を擁する向日丘陵や条里制水田、西国街道、西向日住宅一体の「桜の径」など、随所に風情ある良好な市街地環境が維持されている。一方、市域の竹林や田畑の面積は減少傾向にあり、また、西国街道沿いでは歴史的資源が現代的なまちなみの中に埋もれてしまったり、「桜の径」における桜並木は老木化や根上がりなどによって景観が阻害されている。

これらの景観は、古墳群や長岡宮跡などの歴史的資源と一体となっており、市民のふれあい、憩いの拠点となるよう、散策路などとして整備を進め、景観の保全と修景を図っていく。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	竹の径景観保全事業	整備延長 1,494.6m (H27～30)	あり	H27～R6
2	桜の径景観保全事業	整備延長 132.1m (H29～30)	あり	H27～29
3	西国街道整備事業	整備延長 258.8m (H27～28)	あり	H27～29
4	長岡宮跡周辺道路美装化事業	整備延長 366.1m (H27～30)	あり	H27～29
5	歴史的石碑・常夜灯保全活用事業	石碑・常夜灯移設 3か所 (H27～28)	あり	H27～28

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●竹の径景観保全事業
延長約1.8kmに設置された8種類の竹垣の保全改修を行うことで、竹やタケノコのPRIにつながり、市民や来訪者の認識や理解を深めることができた。

●桜の径景観保全事業
桜の木の成長による根上がりから道路構造物が破損している箇所を中心に、桜の木の環境にも配慮しながら、安全性の向上、景観保全のための道路改良を行うことで、市民の愛着が深い桜並木の景観を保全することができた。

●西国街道整備事業
通常のアスファルト舗装から石畳風の道路舗装に改修することで、歴史的な環境と調和した景観保全を図ることができた。

●長岡宮跡周辺道路美装化事業
公共交通機関である阪急西向日駅から史跡長岡宮のそれぞれの遺跡や向日神社などを結ぶ道路の美装化を行うことで、まちなみの連続性を保ちつつ景観保全を図ることができた。

●歴史的石碑・常夜灯保全活用事業
現代的なまちなみに埋もれてしまった常夜灯や石碑を適切な場所に移設することにより、市民や来訪者が西国街道を歴史ある街道として再認識することにつながった。



竹の径景観保全整備事業
(H30年度)



長岡宮跡周辺道路美装化事業
(H29年度)

④ 自己評価

歴史的な環境や周辺環境に考慮した景観の保全及び修景を行うことで、市民や来訪者の理解を深めることができ、風致の維持向上に寄与することができた。

⑤ 今後の対応

市民のふれあい、憩いの拠点となるよう、引き続き「竹の径」や「桜の径」「西国街道」など本市が誇る美しい景観の保全、修景に努める。

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R1年
方針	V「大極殿のあるまち 向日市」にふさわしい地域・観光振興を推進する	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

地域・観光振興を通じて、歴史資源を認知し、保全活用を図っていく意識を浸透させるためには、快適な回遊性を確保することが重要であるが、散策する上での拠点や休憩所となる施設が不足しているほか、散策道としての道路の整備が十分ではない。

観光スポットとなる歴史・文化資源の場所をわかりやすくPRするとともに、それぞれのスポットをつなぐ情報案内板の設置や、周遊拠点・散策路の整備、テーマごとの散策ルートの設定など、ハード、ソフト両面から地域に配慮しながら回遊性の向上を図る整備を進める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	情報案内板設置事業	誘導サイン21基、デジタルサイネージ6基	あり	H23～R6
2	歴史文化交流拠点整備事業	歴史文化交流拠点の整備(1か所)	あり	H25～28
3	歴史資源回遊性向上施設整備事業	施設改修(3か所)	あり	H27～29
4	向日神社周辺整備事業	休憩施設の整備(トイレ、ベンチ等設置)	あり	H25～28
5				

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●情報案内板設置事業
「向日市歴史文化観光情報板設置計画」に基づき、市内観光周遊の拠点となる地点等にデジタルサイネージや誘導サインなどの観光案内板を設置することで、歴史・文化資源の回遊性が向上した。

●歴史文化交流拠点整備事業
発掘調査などにより貴重な文化財が発見されている市民体育館周辺地区において、地域交流活動の拠点として歴史文化交流センターを整備し、展示している土器の公開入れ替えや土器づくり体験などを行い、市民の歴史に対する理解を深めることができた。

●歴史資源回遊性向上施設整備事業
周遊する際の休憩場所、集合場所となるように、市内の公園に設置されているトイレなどの施設改修を行い、本市の歴史的資源を巡る回遊性が向上した。

●向日神社周辺整備事業
国の重要文化財である向日神社周辺において、トイレやベンチなどを備えた休憩施設を整備し、回遊性の向上に寄与した。



デジタルサイネージ(H29年度)
誘導サイン(H28年度)



歴史資源回遊性
向上施設整備事業
(H28年度)

④ 自己評価

アンケート調査の結果、休憩施設や情報案内板が設置されたことによりまちなかの散策がしやすくなったという設問に対して、「そう思う」の回答が最も多かったことから、各種整備により歴史・文化資源の回遊性が向上した。

⑤ 今後の対応

整備した周遊拠点や散策路を活用して、市民ボランティア等を中心に散策ルートの設定を行うことでソフト面から回遊性の向上を図るとともに、歴史・文化資源を巡るまちあるきイベントを実施することで、歴史・文化資源のネットワーク化を図り、「大極殿のあるまち 向日市」を市内外にPRする。

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R1年			
効果	i ふるさと向日市への住民理解の向上					
① 効果の概要						
長岡京などの歴史・文化資源を活かしたまちづくりの意識向上により、「ふるさと向日市」を応援、PRする人材育成を推進した						
② 関連する取り組み・計画						
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度			
1	ふるさと向日市創生計画	あり	H27～R1			
2	向日市観光戦略プラン	あり	H28～R1			
歴史的風致維持向上計画の認定を契機に、歴史の事実と魅力を市内外に発信し、まちの賑わいと活力を維持・創出することで、子どもから高齢者まで、すべての市民に向日市を「ふるさと」として愛着と誇りを感じられるまちづくりを行うとともに、市民との交流・連携を通じて、市民自らが本市の魅力をPRする活動の実現を目指し、人材育成プロジェクトに取り組んでいる。						
③ 効果発現の経緯と成果						
ふるさと向日市に対する理解と愛着を深められるよう、歴史の事実とまちの魅力を市内外に戦略的に発信するとともに、市民自らが市の魅力を掘り起こし、そして活用し、地域住民主体のまちづくり活動につなげる事業に取り組んでいる。						
●向日市ふるさと検定の実施						
本市の歴史や魅力を知ってもらい、本市に対する愛着を高めてもらうことを目的に、検定事業を実施している。本市の歴史・文化資源に関することを出題することで、歴史的風致に対する理解を深めることができた。						
申込者数：延べ3,094人（H28～R1 計4回分）						
●人材育成プロジェクトの実施						
主体的にまちづくりを行う人材の育成プロジェクトとして、平成29年から勉強会「むこうスタイルLABO」を実施し、現在は勉強会の参加者が、本市や京都市西京区でのイベントにおいて向日市をPRする取組が実施されるなど、地域住民主体のまちづくりにつながっている。また、観光まちづくりに関する人材育成プログラム「むこう観光スタートアップ講座」においても、参加者が主体となって観光振興に取り組む仕組み作りを実施した。						
④ 自己評価						
向日市ふるさと検定の受検者からは「自分の住むまちを知る良い機会となった」という声をいただいております、本市に対する理解と愛着を深めることができた。						
また、人材育成プロジェクトでは、市の事業以外でも市民自らが市の魅力をPRする取組が行われており、地域住民主体のまちづくりを推進することができた。						
2つの事業がインプットとアウトプットの関係となることで、相乗効果を図ることができている。						
⑤ 今後の対応						
引き続き向日市ふるさと検定を通じて本市の歴史・文化資源に対する理解を深めるとともに、向日市の魅力をPRする人材育成を推進し、地域住民が主体となってまちづくりに取り組む機運を醸成する。						



向日市ふるさと検定（R1年度）



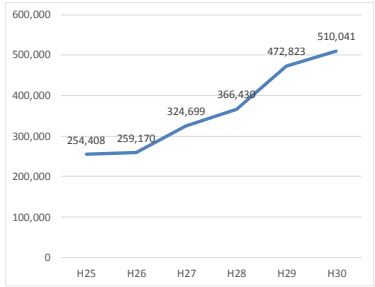
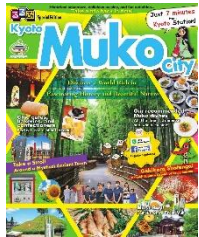
京都市西京区でのイベントの様子（R1年度）

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R1年												
効果	ii 「向日ブランド」の創出・向上														
① 効果の概要 本市の歴史・文化資源を魅力的な商品・コンテンツにブラッシュアップし、「向日ブランド」の向上を図った。															
② 関連する取り組み・計画 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>他の計画・制度</th><th>連携の位置づけ</th><th>年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ふるさと向日市創生計画</td><td>あり</td><td>H27～R1</td></tr> <tr> <td>2</td><td>向日市観光戦略プラン</td><td>あり</td><td>H28～R1</td></tr> </tbody> </table>					他の計画・制度	連携の位置づけ	年度	1	ふるさと向日市創生計画	あり	H27～R1	2	向日市観光戦略プラン	あり	H28～R1
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度												
1	ふるさと向日市創生計画	あり	H27～R1												
2	向日市観光戦略プラン	あり	H28～R1												
本市にはタケノコを代表とする野菜や竹細工の工芸品などの特産品、竹林の景観などの自然、長岡宮跡などの歴史・文化資源が豊富にあるものの、認知度が低いことから、地域資源を活かした「とっておきお土産」の開発を行うとともに、歴史・文化資源を活かした観光体験プログラムの実施に取り組み、「向日ブランド」の構築を図る。															
③ 効果発現の経緯と成果 ●とっておきお土産の開発 市民が“お持たせ”として買いたくなる・観光客が食べたいとなるような、歴史・文化資源を活用した商品づくりを推進し、タケノコを使用したスイーツや、長岡京時代の食事を再現した御膳、特産品である竹を使用した箸など、向日市ならではのお土産が開発された。商品のデザインや包装等には歴まちロゴマークが活用され、市内のみならず民間事業者も含めた市全体で、本市の歴史的風致をPRする機運の醸成を図ることができた。 開発件数:0件(H26) → 7件(H30) 総売上高:2,091千円(R1) ●観光体験プログラムの実施 「竹の径・かぐやのタベ」や「タケノコ掘り体験」、「親子竹馬教室」など本市の特産品である竹を活用したイベントや、長岡宮の古代衣裳の着用体験、西国街道等のまちあるきイベントなど、ここでしかできない観光体験プログラムを市内関係団体と連携して実施し、向日市に対する認知度の向上に寄与した。 ●（仮称）向日市観光交流センターの整備 特産品等の販売スペースや交流スペース等を設けた観光まちづくりの拠点整備に着手した。															
④ 自己評価 民間事業との連携による歴史・文化資源を活かしたお土産品の開発や観光体験プログラムの実施は、市内のみならず、市全体での歴史的風致をPRする機運の醸成につながった。 また、長岡京や竹・タケノコなどを活用したお土産品、イベントは、長岡京が本市にあったことや本市が誇るべき竹林の景観などの歴史的風致を知る機会となり、向日市に対する認知度の向上につながった。															
⑤ 今後の対応 現在、本市の歴史・文化資源を活かし、地域経済の活性化を図ることを目的に、観光案内機能に加えて、市内特産品等の展示、販売スペース、交流スペース等を設けた向日市観光交流センターの整備を進めており、今後は本センターを観光まちづくりの拠点として市内関係団体と連携し、ここでしか買えない・体験できない「向日ブランド」の向上を図る。															



お土産品の開発(H28年度)

タケノコ掘り体験の様子
(H31年3～4月)

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R1年			
効果	iii 観光入込客数の増加					
① 効果の概要						
本市の観光入込客数が5年間で約2倍に増加した。						
② 関連する取り組み・計画						
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度			
1	ふるさと向日市創生計画	あり	H27～R1			
2	向日市観光戦略プラン	あり	H28～R1			
本市は交通利便性が高く、歴史・文化資源が豊富に存在しているが、市外からの来訪者は多いとは言えない状況のため、本市が誇るべき歴史・文化資源を活かした観光誘客を図り、地域振興につなげるため、向日市観光戦略プランを策定し、「子どもたちが自慢できる観光まちづくり～行ってみたい、住んでみたい向日市～」を目標に各種事業を推進した。						
③ 効果発現の経緯と成果						
人材育成や「向日ブランド」の向上に加え、歴史まちづくりと連携した以下の観光振興により、国内外から積極的に観光客を誘致した結果、観光入込客数が平成25年の254,408人から平成30年には510,041人に増加した。 ●観光周遊ルートの整備 長岡宮跡周辺道路の美装化や休憩施設の整備、誘導サインの設置などにより、観光周遊ルートの回遊性が向上し、観光客が快適に市内を散策できる環境が整った。 ●歴史・観光専用ホームページの開設 市のホームページをリニューアルする際に、多言語にも対応した歴史・観光専用ホームページを開設し、国内外の観光客に対して歴史・文化資源の認知度向上に寄与した。 ●観光マップ作製事業 観光冊子「るるぶ特別編集 京都向日市」について、日本語版だけでなく英語版を発行することにより、国内外の来訪者に観光スポットとなる歴史・文化資源を周知することができた。 ●向日市の観光に関するアンケート 平成29年に実施した観光に関するアンケート（回答数79件）において、「向日市は魅力的なまちだと思う」（やや思うも含む）と回答した割合は88.6%と非常に高い結果となった。						
 観光入込客数の推移  歴史・観光専用ホームページ (H27年度)  るるぶ特別編集 京都向日市英語版(R1年度)						
④ 自己評価						
歴史的風致の維持向上に関する各種取組の推進により、本市の誇るべき景観や歴史・文化資源、祭り等の行事を目的とした観光客が増加した。また、歴史・文化資源を活用した観光PRは、向日市の魅力の向上につながった。						
⑤ 今後の対応						
より観光客が快適に市内を散策できるよう、周遊ルートの設定を進めるとともに、シェアサイクルなどの二次交通の導入を検討する。						
また、竹の径の案内板について、経年劣化による修繕と内容の情報更新を行い、周遊性の向上と集客効果による地域活性化につなげる。						

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R1年
取り組み	A 大極殿整備計画事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

史跡長岡宮跡大極殿地区を周辺の歴史文化遺産と一体的に保存し活用を促進することを目的として、目に見えない史跡をより体感できるように遺跡を整備し、大極殿祭を行う顕彰の場として保全し、維持向上させるため環境整備を行った。

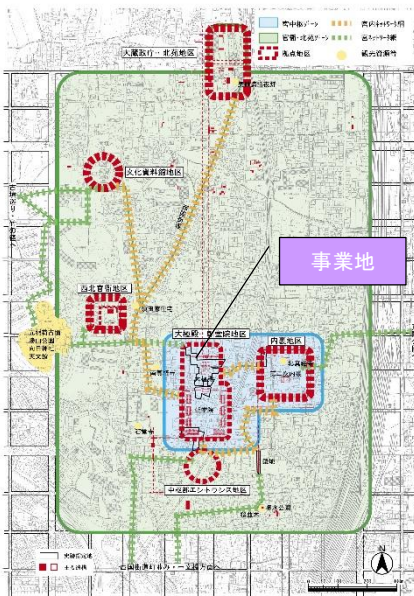
【主な取組内容】

- ・平成28年度 史跡長岡宮跡大極殿回廊地区の整備に係る発掘調査、実施設計
- ・平成29年度 保全整備工事（1か年次目）
- ・平成30年度 保全整備工事（2か年次目）、竣工記念事業
東屋建築（75.47㎡）、回廊表示（339㎡）
関連講演会（131人参加）
史跡めぐり（266人参加）




整備状況
（検出遺構表示、東屋）

整備工事竣工記念講演会



史跡長岡宮跡を中心とした
ネットワーク化計画図

② 自己評価

史跡長岡宮跡の整備は既存整備地との関係から平面ものが主であるが、本地では一部立体復元を用いるとともに、隣接する既存公園（史跡）や道路と一体的な整備を行うことができた。また、現地復元やデジタルサイネージの活用、史跡アプリケーションの配信により、直接目にできず実態が捉えにくい往時の姿をより体感することができ、「大極殿のあるまち 向日市」の魅力と情報発信を行い、文化財の適切な保護と地域振興・観光振興など、まちづくりに寄与することができた。

外部有識者名	京都造形芸術大学歴史遺産学科教授 杉本宏（考古学、文化的景観学、歴史遺産研究）
外部評価実施日	令和2年1月29日（水）

③ 有識者コメント

史跡長岡宮跡については、歴史的に重要な史跡として以前より整備がされてきたが、より一層親しみやすい史跡公園にグレードアップするために、当時の建物の部分的立体復元が初めて行われ、ビジュアルに歴史を体感できるようになったことは大きく評価できる。また、近年のデジタル技術の採用により、多くの情報を遺跡を訪れた来訪者に提供できるため、歴史教育のみならず観光振興に関してもさらなる活性化が期待できる。

このような史跡と住宅地とが混在する場合は、住宅地との景観をいかに馴染ませながら趣のある遺跡景観を創り上げていくかが肝要であり、今後の取り組みに期待したい。

④ 今後の対応

引き続き、史跡長岡宮跡の拡大・拡充に努めるとともに、整備した一部立体復元や復元・体感アプリを活用し、地域住民のみならず広く遺跡を訪れた来訪者に対して、本市にかつて日本の都である「長岡京」の中心地が置かれていた事実を発信し、親しみを持ってもらうことで、「大極殿のあるまち 向日市」としての認知度を向上させ、歴史的風致を保全する機運の醸成につなげる。

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R1年
取り組み	B 向日市文化資料館企画展実施事業	種別	歴史的風致維持 向上施設

① 取り組み概要

歴史文化のまちづくりの中核拠点となる文化資料館において、さまざまな時代における歴史・文化の企画展を開催した。

【主な取組内容】

- ・平成27年度「乙訓の西国街道と向日町」（来館者数1,704人）
江戸時代の西国街道を中心に、名所図や地図、古文書などを展示し、街道が地域の形成に果たしてきた役割を紹介した。
- ・平成28年度「長岡宮の大極殿・朝堂院」（来館者数1,053人）
長岡京跡について、特にその中心となる大極殿・朝堂院に焦点を当て、機能や現代までの変遷をわかりやすく展示した。
- ・平成29年度「乙訓郡誌の編纂とその時代」（来館者数1,306人）
未刊「乙訓郡誌」稿の調査成果を活用して、郡誌編纂の過程とその時代背景を関係資料とともに紹介した。
- ・平成30年度「向日神社」（来館者数2,167人）
本市の市名の由来にもなった乙訓地域屈指の古社・向日神社の歴史を紹介する特別展を開催した。
- ・令和元年度「昭和モダンと向日町」（来館者数1,405人）
昭和期の向日町に居住した人々の活動や、それぞれの交流の様子を美術作品や資料で紹介した。

平成28年度特別展の様子

平成30年度特別展の様子

② 自己評価

本市には古代から近現代までさまざまな年代の歴史・文化資源が重層している。文化資料館で年ごとに企画する展示においては、その時々に応じて市内の歴史や文化にもとづいたテーマにより資料を調査し展示した。また、講演会などの関連事業もあわせて実施することで、市民や来訪者に本市の歴史・文化資源を知る機会を提供することができ、向日市のみならず広く乙訓地域の歴史と文化を広く発信することができた。

外部有識者名	京都大学人文科学研究所教授 高木博志（日本近代史、向日市歴史的風致維持向上協議会会長）
外部評価実施日	令和2年1月27日（月）

③ 有識者コメント

向日市文化資料館では、「維持向上すべき歴史的風致」の構成要素である、向日神社、史跡長岡宮跡、古代以来の西国街道、鉄道とともに開発された西向日住宅、そして歴史編纂の基礎をつくった『乙訓郡誌』、それらをテーマとする独自の企画展を、各々1,000～2,000名の来館者を得て、毎年開催した。企画展関連の頻繁な講演会などにも参加者は多く、成果が図録として公刊された。とりわけ古代から現代までが重層する地域史である『向日市の歴史』（平成30年）は、研究水準を踏まえつつもわかりやすい叙述で、市民のための地域史として全国的モデルになるだろう。また日常的に、来館者に「歴史まちづくり」を知ってもらう、地図・パンフレットの整備やスタッフの案内もゆきとどき、中核拠点としての役割が期待される。

④ 今後の対応

歴史・文化のまちづくりの中核拠点として、引き続き歴史的資料の収集、調査を進めるとともに、各時代の歴史が幾重にも折り重なる向日市の魅力を市内外の来訪者に伝えるため、その時々に応じたテーマで展示を企画し、それに伴う講演会の開催や地図・パンフレットの作成、スタッフによる案内など、さまざまな方法で本市の歴史・文化資源に親しんでもらう工夫を施すことで、本市の歴史・文化に対する理解を深め、歴史的風致の維持向上につなげる。

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R1年
歴史的風致	1 向日神社に係る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史と文化に関する情報発信、情報提供に努め、「向日市」の認知度を高める II 地域の伝統文化の保存・継承、後継者の育成に努める V 「大極殿のあるまち 向日市」にふさわしい地域・観光振興を推進する		

① 歴史的風致の概要

向日丘陵の南端に立地する向日神社は、奈良時代創建の由緒と歴史を誇る乙訓屈指の古社である。神社周囲の7つの郷に及ぶ広い信仰圏を持ち、室町時代には7郷が協力して今日まで伝わる本殿を造営している。

現在の向日市という市名は、向日神社がその起源である。市内には向日神社の関係地が点在し、本社とを結んで執り行われる祭礼は、巡行の経路等が変わっても本質は変わることなく、今も脈々と続けられている。季節ごとに営まれる年中行事も、時代に応じて方法を変えながらも続けられているものが多く、地域の人々の神社へ寄せる信仰や愛着は今も変わらず深いものがある。

② 維持向上の経緯と成果

●向日神社周辺整備事業

国の重要文化財である向日神社周辺において、トイレやベンチなどを備えた休憩施設を整備することで、本市を周遊する際に向日神社を拠点とすることができ、回遊性の向上を図ることができた。

●鎮座千三百年に係る事業

平成30年に向日神社が鎮座千三百年を迎えた。文化資料館においては、平成29年に社蔵文書の史料調査を行い、また、向日神社と向日神社崇敬会が企画・発行した『向日神社史』のために改めて調査を行った。

また、平成19年に実施された企画展をもとに、上記調査の成果を加え、特別展「向日神社」を開催した。特別展では向日神社の歴史や造営などに関する資料を展示するとともに、祭礼や年中行事、氏子組織など脈々と続けられている事象について紹介し、向日神社の歴史と文化に対する理解を深めることができた。

期間：平成30年10月20日～12月9日 来館者数：2,167人

●文化財指定

平成27年8月に境内13棟の建物が、国の登録有形文化財に指定された。

●文化財の保存、防災

向日神社やその周辺環境の修理、整備に対して補助を行い、また、消防訓練や立入検査などの防災対策を行うことで、歴史的な建造物の保全を図ることができた。

③ 自己評価

鎮座千三百年を契機に、文化資料館での特別展や地域住民による記念行事が開催されたことは、連綿と続く向日神社の歴史を地域住民に紹介する機会を提供することができ、向日神社に係る歴史的風致の向上につながった。

④ 今後の対応

- 文化財の保存等について、文化財の指定や修理事業、防災防犯事業などの支援を引き続き行う。
- 史料調査を継続することで向日神社の歴史や伝統を後世に継承し、地域住民や来訪者に広く周知を図る。



向日神社周辺整備事業
(H28年度)



特別展「向日神社」(H30年度)



消防訓練 (H30年度)

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R1年
歴史的風致	2 史跡長岡宮跡に係る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史と文化に関する情報発信、情報提供に努め、「向日市」の認知度を高める II 地域の伝統文化の保存・継承、後継者の育成に努める III 歴史・文化資源を維持保全するとともに、活用を図る V 「大極殿のあるまち 向日市」にふさわしい地域・観光振興を推進する		

① 歴史的風致の概要

本市は、かつて、日本の都であった「長岡京（784～794年）」の中心地が置かれた場所である。現在は、史跡の整備地や周辺において1230年前の古代日本の首都「長岡宮」の様子を直接、目には見えないが、住宅開発などに伴う狭小地での発掘調査をつなぎ合わせることで、古代の都として姿が明らかになってきた。そのような中で、120年以上にわたり地域住民の手により、連綿と「大極殿祭」が行われ、これを守り続けることが史跡指定の拡大や保全整備の原動力となり、ボランティア活動などの取組、さらには地域振興や観光振興の資源として注目されるようになってきている。

② 維持向上の経緯と成果

●大極殿整備計画事業
 周辺の歴史文化遺産と一体的に保存し、また、目に見えない史跡をより体感できるように一部を立体的に復元させることで、史跡長岡宮跡大極殿地区の活用促進に寄与した。

●長岡宮跡周辺道路美装化事業
 阪急西向日駅から史跡長岡宮を結ぶ道路の美装化により、回遊性が向上した。また、阪急西向日駅前整備に際しては、道路の美装化に加え、長岡宮の築地のモニュメントを設置し、長岡宮を感じることができる景観を形成することができた。

●復元・体感アプリ「AR長岡宮」
 スマートフォンやタブレット端末の復元・体感アプリ「AR長岡宮」の追加リリースを行うことで、より多くの方々が長岡宮を親しみ、理解を深めることができた。

●発掘調査、文化財指定
 長岡宮跡は、昭和36年に実施された発掘調査成果により大極殿及び小安殿（後殿）が検出され、昭和39年に「長岡宮跡」として史跡指定を受けた。以後、重要な遺構が検出されるごとに同一名称で地域追加指定を受けている。

●大極殿遺蹟保存協会への補助
 大極殿祭を主催している大極殿遺蹟保存協会に対して文化活動補助金を交付し、祭礼の伝承に寄与した。

③ 自己評価

周辺道路の美装化を含めた長岡宮跡の一体的な整備を行うことにより、市街化した中にも歴史・文化が調和した景観の保全を図ることができた。

また、復元・体感アプリの活用や一部立体復元を行うことにより、往時の雰囲気を感じることができ、訪れる人々の歴史・文化の意識をより一層高めることができた。

④ 今後の対応

- 引き続き、史跡指定地の拡大を推進し、埋蔵文化財の確実な保存と活用を図る。
- 本市に長岡京跡がある事実を市内外に周知し、認知度の向上を図るとともに、長岡京を活かしたまちづくりに取り組む地域住民に対して支援を行い、歴史的風致を保全する機運の醸成につなげる。



史跡長岡宮跡大極殿地区の一体的な整備（H27～30年度）



史跡長岡宮跡内裏外郭築地地区現地説明会（H29年度）



長岡宮跡周辺道路美装化事業
 [阪急西向日駅前整備]
 （H30年度）

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R1年
歴史的風致	3 古代の街道に係る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史と文化に関する情報発信、情報提供に努め、「向日市」の認知度を高める II 地域の伝統文化の保存・継承、後継者の育成に努める IV 美しい景観の保全と修景に努める V 「大極殿のあるまち 向日市」にふさわしい地域・観光振興を推進する		

① 歴史的風致の概要

西国街道は、京都の東寺口から摂津西宮、さらに兵庫を経て中国・九州の西国へと通ずる幹線道路であり、向日市域を通る街道の中でも、特に市民に親しまれている歴史的な道である。街道を通して人やモノが往来し、新しい文化が本市域にもたらされたが、その中でも後世に大きな影響を与えることになったのが、鶏冠井にもたらされた日蓮宗の信仰である。街道沿いには北真経寺や南真経寺、石塔寺などの寺院があり、また、灯籠、道路元標などの石造物が点在している。改宗の喜びを表現した鶏冠井題目踊は全国的にも貴重な民俗芸能である。このようなまちなみは京都近郊地としての本市の歴史と文化の一端を象徴する歴史的風致である。

② 維持向上の経緯と成果

●西国街道整備事業
通常のアスファルト舗装から石畳風の道路舗装に改修し、歴史的な環境と調和した景観を保全することができた。

●歴史的石碑・常夜灯保全活用事業
市街地開発による急激な環境の変化の中で、道路拡幅などにより位置がずれたり、現代的なまちなみに埋もれてしまった常夜灯や石碑を適切な場所に移設することで、西国街道を歴史ある街道として市民や来訪者に再認識してもらうことにつながった。

●民間団体への助成・支援
国登録有形文化財である中小路家住宅に対しては文化活動補助金を、京都府指定文化財の鶏冠井題目踊及び市指定文化財の鶏冠井シャナンボウの保存会に対しては後継者育成補助金を交付することで、伝統文化の保存・継承に寄与した。

●歴史的建造物活用事業
公有化での整備を計画していた建造物について、活用方策を検討するため建物の現況整理や活動状況等の調査を実施したが、公有化については所有者との協議の結果、断念することとなった。

●西国街道を活用した事業
歴史まちづくりへの機運が醸成されたことにより、市民ボランティアによる歴史ウォークや、西国街道沿いの商店の連携によるイベントが実施された。

③ 自己評価

現代的なまちなみの中に埋もれていた街道や石碑等の整備により、まちなみの連続性を保つことができ、かつての西国街道の雰囲気を感じさせる景観の保全を図ることができた。

歴史的建造物の活用については所有者の意向を第一に、活用のあり方を検討していく必要がある。

④ 今後の対応

- 西国街道を活用した周遊ルートを設定や地域ボランティア等と連携し、西国街道沿いの更なるにぎわい創出を推進していく。
- 歴史的建造物の活用については、所有者の意向を第一に尊重し、計画に記載している事業の継続の有無も含めて支援や活用のあり方について検討する。



西国街道整備事業（H28年度）



歴史的石碑・常夜灯保全活用事業（H27年度）

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R1年
歴史的風致	4 用水・ため池と条里制水田に係る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史と文化に関する情報発信、情報提供に努め、「向日市」の認知度を高める		

① 歴史的風致の概要

市街化が進む本市にあっては、農地と農家は減少しているものの、なお古代以来の条里の地割が地名とともに明瞭に残されている場所がある。そこでは、昔ながらの風景の中で伝統を受け継ぐ農作業がかなり限定的ながらも伝えられており、現在も高い生産性と品質を誇る都市近郊農業が営まれている。それを下支えているのは、耕地にめぐらされた水利システムであり、用水の維持・管理を共同で行うために、それぞれの地区内で自治が発展していった。

本市をめぐる細い水路の流れは、古代あるいは中世以来の当地の人々の自治の源流でもあり、貴重な歴史的風致となっている。

② 維持向上の経緯と成果

●条里制水田を巡るイベントの実施
歴史文化交流センター活用事業として、周辺の条里制水田や樋門を巡るまちあるきイベントを実施することにより、地域住民に条里制水田について知る機会を提供することができた。

●水路改修工事
条里制水田につながる水路の改修により流下能力を改善することができ、条里制水田の保全につながった。

●民間団体への助成・支援
向日市域における農業生産のはじまりが水路跡の出土により確認された森本遺跡について、文化活動補助金を交付し、活動を支援することで、遺跡の保存・継承に寄与した。

●旭米を活用した商品開発
今日のコシヒカリのルーツとなっている旭米が発見されたことは、本市農業の歴史上、特筆される事柄である。その旭米を活用した日本酒、ビールが民間事業者により開発され、市内のイベント等で販売された。

まちあるきイベントの様子
(H30年度)

水路改修事業 (H30年度)

旭米を活用した商品(R1年度)

③ 自己評価

本市のまちなみに溶け込んでいる条里制水田について、まちあるきイベントを行うことにより、改めてその魅力を発信し、地域住民に用水や条里制水田に関する認知、理解を深めることができた。

④ 今後の対応

- 引き続き、条里制水田について認知、理解を深める事業を実施するとともに、民間事業者と連携して旭米を活用した商品開発を検討するなど、歴史的風致の維持向上に努める。
- 適宜水路の修繕を行い、用水と水田の景観保全に努める。

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R1年
歴史的風致	5 竹林とタケノコ栽培に係る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史と文化に関する情報発信、情報提供に努め、「向日市」の認知度を高める IV 美しい景観の保全と修景に努める V 「大極殿のあるまち 向日市」にふさわしい地域・観光振興を推進する		

① 歴史的風致の概要

向日市を含む乙訓地域と竹との関わりは、延喜式(927年完成)に朝廷へ「箸竹」を貢進する「乙訓園」がまず史料として登場する。江戸時代の乙訓の村々には竹の年貢が課せられていたことから、当地には古くから竹林が広がっていた。高度成長期には、竹材利用のマダケやハチクの藪はプラスチックの台頭と宅地開発によりほとんど失われたが、タケノコを生産するモウソウチクの藪は現在も市域北西部の向日丘陵に分布している。向日市のタケノコは京都式軟化栽培と呼ばれる極めて多くの手間と時間をかける栽培法で生産され、大きく柔らかいのが特徴である。特に「白子」と呼ばれる最高級品は特別なルートで取り引きされ、特産品としての地位を確実にしている。

② 維持向上の経緯と成果

●竹の径景観保全事業

竹林付近一帯の景観保全等の環境整備を進めるとともに、新たな観光資源を創造することを目的に、平成12年から地元竹材を利用した散策道「竹の径」の整備を行っている。延長約1.8kmの竹の径に8種類の竹垣を設置し、毎年保全改修を行うことにより美しい景観が保たれ、本市の観光名所の一つとなっている。

●竹の径を活用した観光PR

「竹の径」は本市を代表する観光名所の一つであり、平成30年には旅行情報誌が行った「行ってみたい新緑絶景ランキング」で全国1位に選出された。

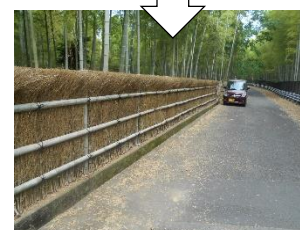
お土産品の開発や観光冊子の作成に際しては竹の径を積極的にPRし、旅行代理店との商談時には概ね好感触を得ており、「竹の径」が行程に組み込まれたツアーを造成することができた。

●竹やタケノコを活用したイベントの開催

向日市観光協会や向日市竹産業振興協議会と連携して「竹の径・かぐやのタベ」や「タケノコ掘り体験」、「親子竹馬教室」など、竹やタケノコにちなんだイベントを開催し、竹林とタケノコ栽培に係る歴史的風致に親しんでもらうことができた。

●長岡京・平安京連携事業

向日市と京都市において、それぞれ長岡京、平安京が建都された都市であることを契機に、市境にある竹の径周辺で「竹」をテーマとした協働イベント「竹結びフェスタ」を開催し、本市のPRにつながった。



竹の径保全整備事業
(H28年度)



竹結びフェスタの様子
(H30年度)

③ 自己評価

竹の径の景観保全やそれを活用した観光PRを実施することにより、国内外を問わず多くの観光客の姿が見られ、向日市の認知度向上を図ることができた。

また、お土産品の開発やイベントの実施など、「竹」をテーマに地域の活性化が図られ、市や地域住民、民間事業者等が連携したまちのにぎわい創出に寄与している。

④ 今後の対応

- ・引き続き、竹の径の景観保全に努め、本市を代表する観光名所の維持・向上を図るとともに、竹やタケノコを活用した向日市のPRに取り組む。
- ・京都市や乙訓地域、京都府等、広域での連携を図り、「竹」をテーマとしたブランディングに取り組む。

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R1年
歴史的風致	6 鉄道と住宅地開発に係る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史と文化に関する情報発信、情報提供に努め、「向日市」の認知度を高める IV 美しい景観の保全と修景に努める V 「大極殿のあるまち 向日市」にふさわしい地域・観光振興を推進する		

① 歴史的風致の概要

都市近郊へ私鉄の路線が延びていき、沿線に郊外型住宅地が造られていった大正時代から昭和期の初めにかけて西向日町住宅地は誕生した。西向日住宅地の人々は、自らの生活スタイルを守りながら、周囲と協調して、現代の向日市域の中でも個性あるまちなみを育ててきた。それを象徴するのが、造成時から計画的に配された街路に、整然と植えられたソメイヨシノの桜並木である。住民による組合や自治会は、結成当初からその維持管理に必要な経費を支出し、個人の家々では日々の掃除などに努めて、開発当初から都市としての計画とともにあった桜並木の景観を90年近くにわたって今日まで守り伝えてきた。

② 維持向上の経緯と成果

●桜の径景観保全事業

桜の木の成長による根上がりから道路構造物が破損している箇所を中心に、桜の木の環境にも配慮しながら、安全性の向上、景観保全のための道路改良を行うことで、歴史的風致の維持向上に寄与した。

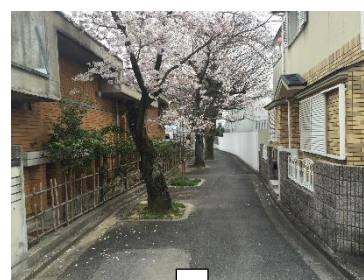
●住民の自治的な活動

西向日住宅地の景観の維持管理は、地域住民による自治的な組織が大きな役割を担ってきた。平成21年には「西向日の桜並木と景観を保存する会」をまちづくり協議会として認定し、また、平成25年には「西向日地区まちづくり計画」を地区まちづくり計画として認定することにより、更なる住民の自治的な活動に寄与した。

桜の時期には毎年コンサートが行われているほか、桜並木をはじめとする景観を守り、歴史・文化資源を大切に作る住民憲章を「西向日桜並木のまち憲章」としてまとめ広く発信するなど、特色ある活動が続けられている。こうした住民活動の積み重ねもあり、平成30年には「西向日・桜の径と住宅地景観」として、京都府景観資産に登録された。

●西向日住宅地の景観を巡るイベントの実施

歴まち計画及び文化資料館の特別展「昭和モダンと向日町」と関連したまちあるきイベントを実施し、西向日住宅地のまちなみを形成する景観（建造物、噴水公園）を紹介することにより、歴史的風致の理解を深めることができた。



桜の径景観保全事業
(H29年度)



まちあるきイベントの様子
(R1年度)

③ 自己評価

景観保全を行うことで、市民の桜並木に対する愛着を深めることができ、住民の自治的な活動による景観の維持管理及びにぎわいの創出につながった。

④ 今後の対応

- ・桜の径の景観保全に努めることで、市民の桜並木に対する愛着を高め、住民の自治的な活動を支援する。
- ・阪急西向日駅周辺を整備する際には地域住民と協議を行い、周辺環境に考慮した景観形成を図る。

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R1年									
① 庁内組織の体制・変化 計画の推進にあたり、事務局であるふるさと創生推進部企画広報課、建設部都市計画課、教育部文化財調査事務所と、歴史・文化に関する事業に取り組んでいる教育部文化資料館を中心に各種事業に取り組んでおり、適宜関係部署との調整を図っている。 平成28年度には、組織改編により歴史・文化を活かしたまちづくりの担当部署と、市の広報の担当部署が一体となった「広報・ふるさと創生課」を新設した。「広報・ふるさと創生課」には観光の担当職員が兼任して所属していたが、平成30年度からは観光分野と市のPRの連携を促進するため、観光の担当部署も一体となった「企画広報課」を組織し、歴史・文化を活かした取組を市のプロモーションや観光でPRする体制を整えることができた。 その他、文化財の整備・活用を検討するプロジェクト会議や委員会等に歴史的風致維持向上計画の担当職員が参加するなど、それぞれの部局が連携しながら各種事業に取り組んでいる。 歴史まちづくりの体制 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">部 署</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ふるさと創生推進部</td> <td>企画広報課</td> </tr> <tr> <td>建設部</td> <td>都市計画課</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">教育部</td> <td>文化財調査事務所</td> </tr> <tr> <td>文化資料館</td> </tr> </tbody> </table>  文化財の整備・活用に関するプロジェクト会議の様子（H30年度）  必要に応じて関係部局の参加				部 署		ふるさと創生推進部	企画広報課	建設部	都市計画課	教育部	文化財調査事務所	文化資料館
部 署												
ふるさと創生推進部	企画広報課											
建設部	都市計画課											
教育部	文化財調査事務所											
	文化資料館											
② 庁内の意見・評価 - 事務局を中心に適宜、関係部局との情報共有を図り、歴史まちづくりに関する取組を推進することができた。 - 歴史的風致維持向上計画の認定を契機に、事務局以外にも各部署で歴史的風致を活かした取組が行われるとともに、職員が自主的に向日市ふるさと検定を受検するなど、歴史まちづくりに対する機運の醸成を図ることができた。  歴史的風致維持向上協議会（H30年度）												
（国、京都府との連携） 歴史的風致維持向上計画の認定を契機に、国や京都府との連携により、本市の歴史・文化資源を生かしたまちづくりの推進を図ることができた。 ●「竹の里・乙訓」における連携 京都府が行っている「もうひとつの京都」での取組において、「竹の里・乙訓」における広域の連携を推進しており、本市の竹の径を筆頭に「竹」をテーマとしたブランディングに取り組んでいる。 ●文化財の保存と活用における連携 文化庁や京都府教育委員会と連携を図ることにより、史跡長岡宮跡などの文化財の適切な保存・活用を図る。  ツーリズムエキスポでの「竹の里・乙訓」のPR（H30年度）												

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R1年
① 住民意見 ◆向日市の歴史を活かしたまちづくりに関する意向調査（平成29年度） 対象者：満18歳以上の市内居住者2,000人（無作為抽出） 回収率：42.7%（回収数853人）			
- 道路の美装化やカラー舗装の整備により歩きやすくなった。 - 多目的トイレや休憩施設が整備されまちなかの散策がしやすくなった。 - 向日市をPRする取組を知っていますか。			
「文化財の活用等歴史を活かしたまちづくり」に対する満足度			
- 道路の美装化や休憩施設の整備といったハード整備については概ね肯定的な評価が得られた。 - 市のPR活動に対する認知度は67.1%であったが、歴史まちづくりに関する事業について「知らない」と回答した割合が高い項目もあった。 「文化財の活用等歴史を活かしたまちづくり」に対する満足度については「満足」の回答が46.6%と概ね高い結果になったが、「どちらともいえない」が36.6%を占めていたことから、引き続き市の取組の周知・PRを行う必要がある。			
② 協議会におけるコメント 【計画全般に関すること】 ・歴史・文化資源の維持保全（あるいは保存）と活用の両輪が機能することが、向日市の営みの良さであり、計画期間の後半においても、バランスよく運用されたい。 ・「竹の径」「桜の径」というキャッチが、イメージ豊かに生業や景観と相まって向日市らしさを形づくっており、優れていると思う。引き続き、保全事業の継続を期待する。 【ふるさと向日市をPRする人材の育成】 ・「向日市ふるさと検定」のような表層的な事業よりも、市民向けの向日市文化資料館が作成した冊子『向日市の歴史』（平成30年度）のような、しっかりした長年の調査・研究に基づいた歴史・文化資源を活用した取組を、社会教育や学校教育の場で展開することが必要であると考え。例えば、学校の教員や向日市職員の研修に『向日市の歴史』を活用してはどうか。 【文化財の保全整備について】 ・「目に見えない史跡をより体感できるように遺跡を整備」という大極殿整備計画事業は、大極殿に止まらず、向日市の歴史的風致維持向上計画全体をつらぬく理念であると共感した。			

市町村名	向日市	評価対象年度	H27～R1年
① 全体の課題 【歴史と文化に関する情報発信に関すること】 向日市の歴史を活かしたまちづくりに関する意向調査において、市の歴史まちづくりに関する取組を知らないという回答も少なからず見うけられた。 【地域の伝統文化の保存・継承に関すること】 祭礼行事や営農を支えていた担い手の高齢化や、本市の特徴である激しい転出入などから生じる地域コミュニティに対する関心の希薄化により、地域の歴史的資源の保全や伝統文化の継承に対する理解が深まりにくい。 【歴史・文化資源の維持保全及び活用に関すること】 時代の移り変わりとともに、老朽化などによる維持管理や補修費用が大きな負担となり、貴重な歴史・文化資源が開発等により失われつつある。 【景観の保全と修景に関すること】 本市の歴史・文化資源を構成している景観において、経年劣化や老木化、台風被害などにより景観が阻害されている。 【向日市にふさわしい地域・観光振興に関すること】 市内に点在する歴史・文化資源をつなぐ案内板の老朽化などにより、本市の歴史・文化資源に関する情報を適切に伝えられていないなど、回遊機能の不足が課題である。			
② 今後の対応 【歴史と文化に関する情報発信に関すること】 引き続き、広報むこうや市ホームページ、情報案内板、観光マップなどを活用した情報発信を行うとともに、SNSなど効果的な情報発信の手法を検討する。また、文化資料館での企画展などにより、本市の歴史・文化資源に触れる機会の更なる創出に取り組む。 【地域の伝統文化の保存・継承に関すること】 これまで取り組んできた人材育成プロジェクトについて、地域住民が主体となって歴史まちづくりに取り組める仕組みづくりや、地域住民による主体的な活動に対して支援を行う。 【歴史・文化資源の維持保全及び活用に関すること】 長岡宮跡や乙訓古墳群などの史跡範囲の拡大や整備、文化財の指定に取り組むとともに、市域の歴史的資料の調査・保存を行い、これらの文化財を活用したイベント等を行うことにより、文化財の歴史的価値を広く普及し、歴史・文化資源を維持保全する機運を醸成する。 【景観の保全と修景に関すること】 歴史・文化資源の価値や魅力が損なわれないよう留意しながら、「竹の径」における竹垣改修や「桜の径」の桜並木の整備など、本市が誇る美しい景観の保全に努める。 【向日市にふさわしい地域・観光振興に関すること】 整備予定である向日市観光交流センターを拠点に、観光スポットとなる歴史・文化資源の情報発信を行うとともに、更なる回遊性の向上を図るため、老朽化した看板の更新や散策ルートの設定、シェアサイクルの整備を検討する。			